

様式 4_助成事業実施報告書

2019年 9月 25日

助成事業実施報告書

団体名.....立川市獅子舞芸能保存会

代表者・役職名 氏名.....会長 井上 孝

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

立川市指定無形民俗文化財 獅子舞・棒仕いの伝承

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

元禄時代から近年までは柴崎町1丁目の旧村が獅子舞を、富士見町3・4・5丁目の旧村が棒仕いを担当し伝承してきたが、昭和38年6月に立川市獅子舞芸能保存会を設立し、協働して伝承することとなり、現在に至る。会員数30名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

立川の旧本村である柴崎町・富士見町に元禄時代から伝わる本市唯一の無形民俗文化財である獅子舞・棒仕いの維持保全並びに後継者の育成に努めることを目的とする。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ・毎年8月に行われる立川諏訪神社例大祭での獅子舞・棒仕いの奉納
- ・後継者の育成

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

本助成金を活用して、棒仕いの衣装である袴を二十数年ぶりに新調することができた。立川諏訪神社例大祭への奉納は無事に執り行われ、観客数は例年よりも多く、地域に本伝統芸能を広く知らしめることができた。また、舞子を務めた小中学生をはじめ、関係者は本事業の維持保全への意識を一層高めることができた。また、令和2年2月29日に行われる立川市立立川第一小学校創立150周年記念式典に棒仕いが出演することとなった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

次年度は棒仕いの舞子を務めたいという小学生が名乗りをあげてくれたことは大変喜ばしいことである。しかし、棒仕いの師匠、獅子舞の笛方等のスタッフの減少傾向は続いており、後継者の発掘と育成が引き続き大きな課題である。広報活動を工夫し、本会への入会希望者を募る必要がある。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

諏訪神社



例大祭のメインイベントが、立川市指定無形民俗文化財の伝統芸能「獅子舞」です。次代の継承者たる『立川市獅子舞芸能保存会』の皆さんに注目しました。

立川の獅子舞

子どもが主役

徳川綱吉の時代から続いている？
立川の獅子舞。

「元禄2年に、獅子舞が奉納された記録が残っている!? ああ5代将軍綱吉の時代から続いているんですか!?!」今回の特集を組むことがきっかけで、初めて諏訪神社の獅子舞の存在を知った、立川市民歴12年の私。

早速、立川の獅子舞を勉強するため『立川市獅子舞芸能保存会（以下保存会）』に取材してきました。地域の五穀豊穡・悪疫退散を祈願して奉納する獅子舞を、保存・継承する団体です。330年続く、伝統芸能を支える方々。頑固で無口な職人さんみたいなのかしら…いえいえ、優しくて気さくな皆さんでした。ホッ。



▲昭和レトロな佇まいの「獅子座」こと、衆一八組合会館。ここで獅子舞の練習をする。

新旧
舞子に
インタビューしました。

先輩の舞子
井上孝さん、会長
小学5年生から天狗・雄獅子・雄獅子（中頭・大頭）を16年間舞う。現在は、子ども達に獅子舞を教えるお師匠さん。

子どもの頃、獅子舞を踊るのには体力がなくてよく疲れた。が、お師匠さんになつた今、「もう一度踊りたい」という気持ちになる。これは素直に人に学べない、獅子舞の魅力。

小さい頃から見ていたので、ずっと憧れていました。念願が叶った時は、「できて良かった」という気持ちでした。毎年舞っていますが、何年やっても完璧にできない、だから毎日練習です。使命感もありますが、なにより舞うのが楽しい。

現代の舞子
けい君、小学2年生
小学4年生から現在まで、雄獅子（大頭）天狗・雄獅子（中頭）を練習中。

現在のメンバーは、小学生から80歳代までの30人位。諏訪神社周辺地域の住民を中心に、立川市内から集まっています。

昔は、祭りの日以外に舞うことはなかったそう。しかし、立川の獅子舞を多くの人に知ってもらい、楽しんでもらうための活動として、様々なイベントに参加しています。舞いに合わせて解説が入るので、初めて獅子舞を見る人でも楽しめます。これは、是非見に行きたい!

獅子舞を舞っているのは、
実は、高校生や大学生です。

「天狗や棒を持っているのは子どもだけど、獅子は大人が舞っているの?」と思いませんか。違います。獅子は、高校生や大学生の、スラッとしたイケメン達が舞っています。

獅子舞、大きく見えますよね。獅子のカシメを頭に戴けると、舞子の顔は、朱色の布（ダンス）で隠れます。舞子の顔1個分、背が高く見えるのです。舞い方にもポイントがあります。ダンスがふわっと広がる動作——胸を前後左右に振ったり、中腰の姿勢で地面を力強く踏み込み動きながら、遠くまで勇ましい、なおかつ貴族のある獅子舞を演出しています。小回ったであろうご先祖様が編み出した、獅子舞を大きく見せるための工夫かも。



▲手前が天狗。後ろ左から、角が真っ黒な雄獅子（中頭）頭には玉が乗っている雄獅子・角が白じれている雄獅子（大頭）。日本各地を旅する物語を演じる。

「カッコいい獅子舞」ですが、舞子ならではの苦労があるようです。それは衣装の重さと、現代の夏の暑さ。衣装の総重量は、一番重いもので、なんと約10kg! しかも真夏に激しく舞うので、熱中症の危険性もあります。彼らはまさに命がけで、諏訪の神様へ獅子舞を奉納するのです。本当に頭が下がります。



▲大江山の鬼退治をした源頼光の祟れ、遠辺綱・坂田金時・大江保正・横井定光が「猿」を悪く場面を演じる。

小学生が頑張る、棒仕い。

きりっと太い眉毛に、スッと白い鼻筋、真っ赤な唇の4人の少年。彼らは、獅子舞の露払いの役目「棒仕い」という舞子です。短めの棒、小棒を担当するのは初心者。自分より背の高い棒を、器用にフルフル回す様子は「かわいー!」の一言に尽きます。長めの大棒は、小棒を経験した少年の担当。息のあった、太刀と棒が並びます。思わず応援したくなります。

継承するのは、やっぱり大変。
でも、いいことだってあります。

魅力あふれる立川の獅子舞、しかし330年の歴史を受け継ぎ、後世に残すことは大変です。まず、後継者問題。とくに舞子の成り手を見つけるのが難しいそう。そこで約4年前、当時の会長だった故・沢田和夫さんが小・中学校の授業（立川市民科）で獅子舞の説明を始め、一昨年からには副会長の鈴木さんも、地元の小学校で獅子舞の授業を行っています。鈴木さんは「地域に伝わる獅子舞を地元の子ども達にもっと知ってもらい、その中から舞子に興味をもってくれる子ども達が出てくればいいな」と語ります。土俵で舞うことから、舞子は男の子に限られているけれど、女性の私からみれば、伝統芸能に関われるなんて羨ましい。

他にも困りごとがあります。保存会の運営費のほとんどが寄付で賄われていること。そして、そろそろ修理が必要な、幕末生まれ（!!）三代目の獅子頭ですが、詳しい資料が残っていないため、修復が難しいそうです。

いいこともあります。「私が子どもの頃に比べて、自治会の人の数が多いのは年々減っているけれど、獅子舞を継承していくことで、昔からの人の繋がりも保てていきたい」と語る鈴木さん。獅子舞は、地域の人々との関わりを作る役目も、果たしているのです。

練習を見学したとき、舞子の子ども達が「お師匠さんが優しいから、楽しい!」と口を揃える姿が印象的でした。（ようちゃん）

先輩の舞子
鈴木恒雄さん、副会長
小学3年生から中学1年生まで棒仕いを経験。現在は子ども達に棒仕いを教えるお師匠さん。

棒仕いに選ばれた時は（お化けをさすのぞ）怖くなくて楽しかったが、いざ舞ってみると、棒を回すのが大変だった。でも、楽しかった。今でも、棒を回すのが大好きです。夏の間は毎日練習しています。

例大祭、まだまだありますよ。

阿豆佐味天神社 例大祭



阿豆佐味天神社は、砂川の新田開発の際に、村の鎮守の神として寛永6年（1629年）に建立されました。御祭神は、医学・健康・知恵の神とし、名高い「少彦名命」、文学・芸術の神、天児屋根命の二本柱。また、この地では、養蚕業が盛んであったことから、蚕や繭を食べるネズミを退治することから猫が守り神とされていて、今では、猫に関わる願いが叶うという「猫返し神社」として有名です。本殿は、市内で一番古い建築物として、立川市の指定有形文化財に指定されています。

例大祭が行われる日は、神楽殿で奉納演芸会や神楽、太鼓などの郷土芸能が催されるほか、五日市街道を大太鼓、お囃子が練り歩きます。境内では、砂川産の青果直売も行われます。元日には、だるま市が立ち初詣客で賑わいます。

熊野神社 例大祭



熊野神社は、享保11年（1726年）に開拓されたと伝わる七軒家という集落の鎮守として創建されました。元は、現在の立飛アールエステートの南門あたりにありましたが、昭和20年の空襲で焼け、その後、現在の場所に移りました。

例大祭が行われる日は、境内で氏子による日本舞踊、奉納演芸のほか、祭礼二日目に高松町の全9町会から神輿が集結し、勇壮な神輿パレードが行われます。先頭の神輿がお披露目をしながら神輿を先導し、その後に山車や太鼓が続き、ファール立川から熊野神社を目指します。（みかちよ）

番外編 新しい故郷の文化祭を創造した、立川市の市民祭り

立川よいと祭り ~光と音のシンフォニー

平成元年生まれ、地域活性化を目指し始まった『The 日本夏』。

よさこい、パレードから和太鼓、お囃子、山車、万灯みこし、松明回しと祭りのオールスターが勢揃い。どっぶり祭りの世界に浸れること間違いなしです。

市と地域の様々な企業、団体の参加と協力で作り上げられ「にぎわい」「やすらぎ」「交流」「文化保存継承」が主な目的で、人々をつなぎ、地域の絆を育んでいきたい。そしてよいと祭りの名称には「立川をより良いふるさとへ」などの願いが込められています。

昔からある良いものを残していきたいというシンプルなきモチが形になったお祭りではないでしょうか。（まりちゃん）



